

化学の目で見たとき、水は固体になると体積が増える、とても不思議な性質を持つ物質だ。そんな水は、私たちの身近に存在し、私たちはそれを、普段の生活の中でなにげなく使っている。水は地球上で生きる全ての者たち、地球全体に恵みを与えてくれる、「神様」のような存在である。しかし、その反面、水は私たちに危害を加える「悪魔」のような存在でもある。

例えば、大雨による洪水で家が沈んだり、地震や噴火により発生した津波で、たくさんの建物や人の命が一瞬で奪い取られてしまったりする。十一年前の三月十一日、東日本大震災では、多くの命が波に飲み込まれ、失われてしまった。恵みをもたらす水が、牙をむいた瞬間だった。まだ幼かった私にはほとんど記憶がないが、家族で避難したことを少しだけ覚えている。

他にも、地球温暖化の影響により、氷河や氷山の氷が溶け、海面が上昇しているという。海の近い地域では、海面上昇により海岸が浸食され、動物や民族が生活している場所がどんどん狭くなり、伝統的な生活様式を変えねばならなくなっているそう。数年前まで米やトウキビを栽培していたフィジーの島では、海面上昇によって海水が上がってきて、土壌は塩化し、作物を育てることはできなくなったという。

この問題は、島国である日本にも大きく関係してくるだろう。私たちの住む日本の国土がどんどん失われていくのだ。それを防ぐためにも、この世界的な気候変動、地球温暖化に具体的な対策を立てていかなければならない。

二〇三〇年までに達成するSDGsでも、十三番目に「気候変動に具体的な対策を」が挙げられている。しかし、何から始めればいいのかかわからず、行動に移すのはなかなか難しい。それならば、少しずつ自分ができそうなことから始めればよいのではないだろうか。

例えば、水道水を出しっぱなしにして歯を磨いたり、洗い物をしたりしない。買い物をする際にはエコバックを持参して、ゴミを減らす。部屋の電気をつけっぱなしにしない。小さなことだが、この一歩が環境を守る力になると考える。

また、SDGsの六番目には「安全な水とトイレを世界中に」が挙げられている。私たちの住んでいる地域（函館市）では、のどが乾いたら水道から出る水を何の迷いもなく飲む。水道水は安全だし、それなりにおいしいと感じているからだ。

しかし、他の国の水道から出る水が同じくらい安全ではない、ということを知った。そもそも水道自体ない国もある。特にアフリカでは、泥水でも飲まなければならない状態の国があると知り、私は衝撃を受けた。想像もしたことがなかったからだ。

安全な水があるからこそ、身体や衣服を清潔に保つことができる。手洗いやうがいなどで伝染病を防ぎ、安全な水で調理をすることで、安心して暮らすことができる。十七あるSDGsの項目の中で、六番目なのは水が私たちの生活の中で重要だからだ。

脅威にもなる水。しかし、私たちの生活の中で水は大切に、欠かせない存在だ。これからも安全でおいしい水道水を得るためにも、私たちは真剣に環境問題について考えなければならぬ。

普段の生活の中で、油やラーメンのスープなどを下水道に流さない、ゴミをポイ捨てしない、などの小さな行動を起こすことで、水を、地球を大切にしていきたい。

地球の恵みである「水」と向き合い、大切にすることで、これからの地球、地球上の生命について深く考え、よりよい未来を生かすための一歩を、私は踏み出したい。